大正八年三月七日 第三種郵便物認可　昭和十五年七月二十六日　磐城時報　(金曜日)　第七千八百四十六號　【一】

夕刊
磐城時報
二十五日發行
福島縣平市紺屋町十四 編輯兼發行 印刷人 岡田弘成
福島縣平市紺屋町十四 印刷所 磐城時報社
福島縣平市紺屋町十四 發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金廿錢
廣告料一行十四字詰五十錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

鮫川疏水復活のよろこび
八月中旬落成通水式
感慨無量の古川傳一氏

工費七十万圓、五ヶ年繼續事業で昭和十三年完成した植田、小名濱、玉川、上遠野、渡邊、泉の二町四ヶ村、六百九十一町歩に灌漑する鮫川疏水は本春以來一部に故障を生じたが補强工事も完成したので八月中旬落成通水式を擧行する事になり準備中である。同水路落成のため從來水不足に惱まされてゐた玉川、小名濱方部の水田は惠まれ例年同方部で六十町步位の植付不能田或ひは稲枯死の田があつたが、本年は全然この憂ひなく同方部のみで本年は五千石の增收確實と言はれてゐる。

同疏水復活の功勞者植田町長古川傳一氏は數年前農村對策、米價對策等の叫びの下に耕作減反過剩米處分等の策さへ行はれんとした當時を想ひ今日の鮫川疏水復活を見て感慨無量なるものがあると語つてゐる

紙屑の中から
四百圓發見
紙屑の賣主を 平署で調査

平市材木町古物商濱田芳男氏は買ひ集めた紙屑の中から十四年度發行三分半利付支那事變國債額面百圓券四枚を發見したが、紙屑の賣主が判らないので平署に屆け出でた。濱田氏は牛島人であるが過般は平警防團後援會に卅圓を寄附した奇特家である

經濟協議會

四倉警察署管內二町四ヶ村の役場內經濟役員を召集せしめて砂糖配給の件、外經濟に關する協議をなした

片倉製糸で 貯蓄奬勵

平市の片倉磐城製糸では特約養蠶組合に對し貯蓄報國をすゝめ去る昭和十二年から組合收入の繭價のうちから貫對一錢乃至二錢づゝ及び成績に對して會社から特別に給與される奬勵金の全額または半額、或は一部の貯金郵貯をつゞけてゐるが、二百十余組五千八百の養蠶家をもつて同現在額すでに四万二千圓に達し各戸に分くれば零細なものだが集まれば大きいものと組合にも大乘氣でゐる。また今春繭收入から實行の十貫百圓を超えた場合その超過額の半額を積むことになつてゐる報國貯蓄は同以上の積立てに妨げなく此の今春繭貯金高は大体六萬五千圓に上るものと豫想されてゐる

盗まれたと思った
臥龍の尻尾
平商の勤勞奉仕で 瓢箪池の泥中から發見

平市松ヶ岡公園瓢箪池の釜屋商店諸橋久太郎氏寄贈の臥龍の尻尾が數年前突然姿を消したので盗難にあつたものと平署で各方面を搜査したが發見されずにゐたが、この程平商業學校で行つた勤勞奉仕池底浚ひに出勤した五年生市內紺屋町高木利一君が泥の中に埋れてゐたのを發見、市役所に屆け出た。これで長い間シツポがなくつて威嚴を損して居た龍も漸く一人前?になり勇ましく水を噴上げ公園の樹間に凉を追ふ人々を喜ばせる事になつた。

削節工業 組合役員

縣削節工業組合役員は次の通り決定した
▲組合長鈴木道太郎(湯本)
▲副組合長吉田彌十郎(四倉)
▲協議員馬上與八(小名濱) 阿部榮藏(平)宮澤文夫(郡山)

小兒科・內科
酒井醫院
入院隨時
平市南町(電五五番)
醫學博士 酒井保

軍馬鍛練競技 優良馬に賞金

石城産馬畜産組合では管下各町村の軍用保護馬中から優良馬四十五頭を選拔、九月十八日平市(會場未定)で鍛練競技會を開催することになり目下準備を進めてゐるが、當日は縣から技術官が臨席審査の上入賞馬には各賞金を授與することになつてをり然も縣下では最初の催しだけに早くも各方面から好評を博してゐる。尚これが準備打合せ會は二十六日午前十時から平事務所で開かれる

磐中快勝して 決勝戰に進む

大磐中の傳統を誇る陣容にて準決勝戰に喜中と對戰左の如きスコアにて强敵喜中を一蹴し決勝戰に進む事になつた。

		一	二	三	四	五	六	七	八	九	
磐中	0	7	1	0	0	0	2	4	0	0	14
喜中	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2

石城の菜種

農林省が東北の大麥、小麥、菜種の標準査定會を行はれるに先きだち本縣で菜種の出品に主産地たる石城、双葉兩郡下農檢支所關係吏員並びに本所から草薙技手の出張を四倉驛前菜種搾油所に會して假標準の査定協議會を開かれたことは既報の如く石城三十二點、双葉八點計四十點に對して嚴査の結果
正準一等磯井初三郎(大浦)二等根本智(錦)三等木田良文(夏井)副準一等岡田一男(大浦)二等鈴木春雄(夏井)三等星德次郎(錦)をあげて出品した、主務省の同査定會は靑森縣に於て開催、本縣出品の菜種のうち例年の成績をつゞけて左記三等の當選を去る廿二日正式なる通知を受けた
▲三等木田良文(夏井)出品

商業組合 幹部講習會

縣下地區商業組合幹部夏期講習會は二十八日から八月四日まで小名濱町縣水產試驗場に開く

水講生水泳練習

小名濱町縣水產試驗場內水產講習所では二十日から十日間水泳練習を行つてゐる

佐波古氏が 刑事協會寄附

湯本町字三函佐波古直眞氏は昨年十圓三十錢を拾得したが之を交付されたのでそつくり刑事協會平支部に寄附した

小名濱で チブス豫防

小名濱町では傳染病の流行期になつたので町民に內服ワクチンを服用させる。

中支から
柳下巨男君通信

謹啓、時下盛夏の砌り皆々樣には御變りなく元氣に御働きの事と遠察申上げて居ります。降つて小兵もお蔭樣を以ちまして相變らず元氣一杯軍務に精勵致して居ります他事乍ら御安心下さい。さて御發送の慰問袋本日有難く拜受仕りました、結構なる品々及び懷かしき鄕土の便り有難く御守護等多數慰問下されまして有難く御座いました。御多忙中にも拘らず小兵如きものの上に迄御心をお掛け下されまして誠に厚く心より深く感謝申上げて居る次第であります。小兵皆樣に御報告すり功として未だ無く非常に殘念となし申し譯無く思ひ居りますが、一朝事のありし時こそ決して皆樣の御期待に背かぬ働きをと固く誓つて居ります。小兵思はぬ故鄕よりの慰問に懷しき山河を追想して居ります、御送り下さいました新聞、また慰問文より鄕土の大發展を目に見る如く知る事が出來まして非常に嬉しく存じました。これも偏に御會皆樣のお蔭です、唯々感謝の外はありません。小生も(以)思ひ切り頑張つて勤務致す心算で居ります何卒分銃皆々樣に於かせられても充後御身体に御注意下されて益々銃後の完璧を期される樣遙かにこの地からお祈り致して居ります。簡單でありますがお禮迄申上げます。

歐洲再檢討と 日本的自覺
小林生

(二)

近代ヨーロッパ文化に對してアジア文化の戰が要求されつゝある。科學機構により矛盾と欺瞞の世界文化であるとなし、人類文化を破壞するでなく、科學によつて新世界創造の用具たらしめるアジア的『世界文化』は要求された。

これこそは人類世界の歷史がアジアに課せられた使命である。ヨーロッパ人の爲に屈せられたる膝をのばして起ち上り、而も、地球上を搖がせて總べての價値顚倒をなさしむる時は來た。日本的世界維新の戰が！　非合理なるものゝ夜明けから新しき神話の黎明へと！——かくして階級と階級の搾取を中止なさしめ民族による民族の搾取を中止し、科學都市により田園の搾取を中止せしめ、宇宙をして自然と科學と人類の統一ある世界たらしむべく、古き傳統に生きるアジアの『世界學』により、ヨーロツパ科學の征服によつて新しき世界文化を創造すべき秋は來たのだ。

眞の平和を求め、人類の新しき世界を創り上げんとする眞劍の戰を要求した。矛盾の前に戰は辭されまい。平和の人類を愛するものに戰は要求されつゝある。戰の道を通して人類史の正しき方向へ！　この方向に進むことにより、民族による民族の搾取は跡を絕ち、アジア的世界創造の戰ふ精神は、必然に、階級による階級の搾取に跡を絕たしめるであらう。かくてヨーロッパ文化は、より高く、より擴いアジア文化に綜合統一せられることにより、こゝに大アジア世界主義の新世界文化創造の礎定進路を示すに至るであらう。

戰ひを指して殘虐と云ひ、戰ふことを指して人類鬪爭の殘虐史となすか？吾人は否！と否定するであらう。世界人類の如何なる歷史があり得たらうか？——原始國家の奴隸殺戮——封建制の農民一揆資本主義機構の勞働戰線。宗敎による異敎徒の殺戮。一國家內における市民戰爭。一國家の他國家に對する國民的戰爭——かくして世界を變革し世界に新しき樣相を創造せんとする戰ひがある。個人の屍は歷史の奥深く埋もれるとともに、新時代の文化を創造して行く。而かして個人は新文化の上に輝かしく再生する。

こゝに人類歷史の殘虐性と人類歷史の自己否定とを見る。こゝに歷史の壯快なる眞理性と、壯大極りなき悲劇を見る。而してこの人類歷史に戰ひが跡を絕ち、階級鬪爭と民族鬪爭が昔の夢と化し去つた時に始めて平和を人類の王座として、人類は眞の人類前史を終であらう。

鎌倉漫談

（六）　根本毅一

『ナニ頼朝のデツカチ頭とは君は逢つたことでもあるまいに……』

『それはないサ。逢つたのは松本幸四郎の頼朝だけさ。アレは立派すぎるよ。實は左に非ずでおでこで金壺眼で風采頗る上出來でなかつたさうな。古い川柳に、

拜領の烏帽子梶原縮め

と書いたのがある。梶原だつて佐々木高綱と宇治川で先陣を爭つた程の豪傑だ相當大男でソレに連れて頭の鉢も人並よりも一二割デカバテだつたんだらう』

『へえそんなものかね』

『イヤに氣に入らねえ感心の仕方だね。頼朝と來ては世界五大巨頭の元締だぜ』

『五大巨頭とは誰々だえ』

『故內閣總理大臣陸軍大將桂太郎閣下、第一次歐洲戰爭の大立物英國の大宰相ロイドジョウジ氏次は福の神福綠壽に福助チャンとね、けれども頭のデカ鉢の人間は骨相學上何をやらしても一方の旗頭になるの素質を持つてるとさ。頼朝然り、桂太太郎ロイドジョウジは云ふも更なり福綠壽はストーブの親分で福助は足袋を以て天下を風靡し……』

『オイ〳〵眞面目に聽いてるのに宜い加減に興太を飛ばせよ、アンマリやらかすとモウ信用しないぞ』

『なんのかんのと云つてゞ裡に三の鳥居の前へ來てしまつた。潜つた處兩側にある朱橋と云ふのが此れだ、眞ん中のが太鼓橋如何う云ふ了見だか八幡樣には斯んな橋があるね、河もないのに態々堀を作つて猫が怒つた時のやうな橋を架けて、平の八幡社にもこれと同じやうなのがあるよ。時局柄此處に無駄ありと云ひ度くなるね。鬼非戸の天神樣の橋に到つては氣狂ひ染みて居る』

『恐ろしく惡く云ふね』

『あるから渡らないのも變だから、年甲斐ひもなく渡る、渡れば呼吸が切れて……』

『ソハ、飛んだ八つ當りだ』

役員賞與金　金參百圓也
配當金（年四分ノ割）　金五百圓也
後期繰越金　金四百參拾七圓〇五錢也
當期末給付金契約高　一二、三九七、四〇〇圓

昭和十五年七月二十一日

磐城無盡株式會社

專務取締役　小宅嘉久治
會長　野內彌富
常務取締役　豐田豐治
同　有賀幸太郎
常任監査役　渡邊大
監査役　全員任期滿了再選重任ス

貸借對照表

第八期末昭和拾五年六月三十日　現在

資産	金額
現金	四、九八八、〇五
銀行預ケ金	一八六、四九七、七一
郵便貯金	三九、三五四、八六
給付口排金	一、五九六、八〇四、一六
有價證券勘定	一七七、三三〇、八〇
貸付金勘定	八八四、九八八、六五
假拂金	四、七〇六、二八
營業用土地建物什器	三〇、八一七、四九
所有動産不動産	一、二一〇、〇〇
拂込未濟資本金	七五、〇〇〇、〇〇
合計	三、〇〇一、五九八、〇〇

負債	金額
未給付口掛金	二、五〇二、四九〇、五六
入札差金	五六、二三六、四六
解約返戻金	八、五八三、八六
給付補塡備金	一九四、六〇
入札差金補證備金	三二、五八四、九五
無盡利益備金	九三、五〇七、一六
假受金	四五、三五三、三六
加入豫約金	一三七、六五〇、〇八
社員保證積立金	四六、一七
資本金	一〇〇、〇〇〇、〇〇
法定準備金	六、一〇〇、〇〇
特別準備金	四、八〇〇、〇〇
建築積立金	一、〇〇〇、〇〇
社員退職給與基金	五、〇九六、四六
當期利益金	三、〇七七、二七
內前期繰越金	四、七三七、〇五
社員退職給與基金戻入	四四〇、八〇
合計	七三三、五〇
	三、〇〇一、五九八、〇〇

財産目錄ハ貸借對照表資産勘定ト同一ニ付省略

利益金處分

法定準備金	金壹千圓也
特別準備金	金壹千圓也
建築積立金	金壹千圓也
社員退職給與基金	金五百圓也

牛豚

平市田町
電話三一三三番

清酒 高清水

電話三八六番

体位向上の夏

新舞子や四倉の海は招く
海岸行は快適な木炭バス

今年は更に增車致しました
平↑→四倉　往復券二割引四十錢
（團体は特に御相談に應じます）

御案內　自動車停留所からの道程
★ピクニック、船遊びには日本百景
新舞子、仁井田浦へ……約二丁
★海水浴には……四倉海水浴場へ……約一丁
★波立藥師、鰐ヶ淵海岸へは……約八丁

平　市　四　丁　目
合名會社　平四倉乘合自動車
電話五九四番

氷

電話二一三番
の御用は

魚問屋へ

鰹節製造販賣
（日本生命平代理店）
平市四丁目
志賀盛榮商店

コークス

木炭・豆炭・コークス・ノ代用燃料

三菱コークス

特長　火力強ク、火持チヨク、
木炭ノ半値、御使用ハ御家庭用ノコンロ、火鉢、鍛治用、
一俵（五〇キロ）カラ配達致シマスドウゾ御注文下サイ

昭和十五年六月

平市田町二
電話一一三七番
阿部石炭商店

女販賣員を募る

◆採用員　五名
◆年齡　十八歳ヨリ二十歳マデ
◎詳細ハ平職業紹介所ニ問ヒ合セ下サイ

平　市
三井呉服店
電話二八三四番

◇和文タイプライター
◇最新事務用品類
◇文房具一式
◇製圖並に測量用品
◇贈寫版並に附屬品

平市田町銀座街
東邦タイプライター代理店
東邦タイプ製造所
藤森商會
電話三七七番
振替仙臺五一〇番
（藤森事務用器商會）

内臓外科

內臟外科
腦脊髓病科
外科　醫學博士　松村亨
整形外科
レントゲン科
理學療法科

婦人科

內科
胃腸病科
肛門病科　醫學得業士　松村鐵郎
皮膚科
泌尿器病科

性病

平市南町
電一〇七
松村醫院

神經痛・ロイマチス
漢方塗布藥　百草根
藥價　五〇錢　一五〇〇　三〇〇錢
◇陸海軍病院御用藥
平代理店　丸亀商店
平市大町　電話一三三番

附屬産院

新設
妊産婦入院隨時
産科　婦人科
木村病院
平市新川町
電話一六四番

安田生命　保険
日本共立火災
東京動産火災
平代理店　井上貞治郎
平市五町目　電話六六番

これは便利！

★手を荒さず
★絹、毛織物、木綿、スフの生地を傷めず
★つけておくだけで洗へる

マルミ粉末石鹸

製造元　平市材木町一一